

STEM REPORT Science English, Science & Talk

2022.3.4 FRI

3月4日（金）5，6限、コスモサイエンスコース2年生 Science English の授業として自然科学研究機構外国人研究者による授業③「サイエンス・イングリッシュ」を実施しました。

基礎生物学研究所 Jakub Wudarski 先生に、ご専門の再生生物学研究についてたっぷりと語っていただきました。モデル生物はプラナリア。幹細胞 (Stem cell) の定義から講義はスタートしました。すべて英語でも、持っている知識とスライドの図を頼りに理解をすすめます。赤外線 (IR) を当てて、活性化する細胞をとらえ再生のしくみを明らかにする、というところでは周りの人と疑問を共有しながら理解に時間をかけました。講義の最後に「科学の研究とはファスナーのようなもの。研究者は1つ1つのパーツで、それらが組み合わさって閉じて真実が明らかになる。」を聞いたときには納得の空気が流れました。

理解したことを共有中



英語で質問に挑戦



サイエンス&トークは
ポーランド三昧



授業後にも「サイエンス&トーク」でご指導いただきました。英語部やサイエンス部、受験勉強の合間の3年生など15名にご出身のポーランドについて、歴史、食べ物、著名人、慣習などをお話いただきました。ポーランドにプチ旅行、そんな雰囲気が会場を包みました。Jakub 先生、ありがとうございました。

受講生の声：プラナリアは、私たちも実験で用いている生物だが、蛍光染色や赤外線レーザーの照射といった馴染みのない手法で最先端の研究が行われていることが分かった。研究設備も見てみたい。

プラナリアの研究をすることが、様々な生き物の医学や生物学に深く関わっていくことに気づくことができた。

知りたいことがあって質問してみたが、英語力が足りなかった。再生には記憶が関係するかと思ったが、よく考えたら再生によって全く新しい細胞が生まれるわけで、細胞に記憶がある、というのは現実的ではない。